

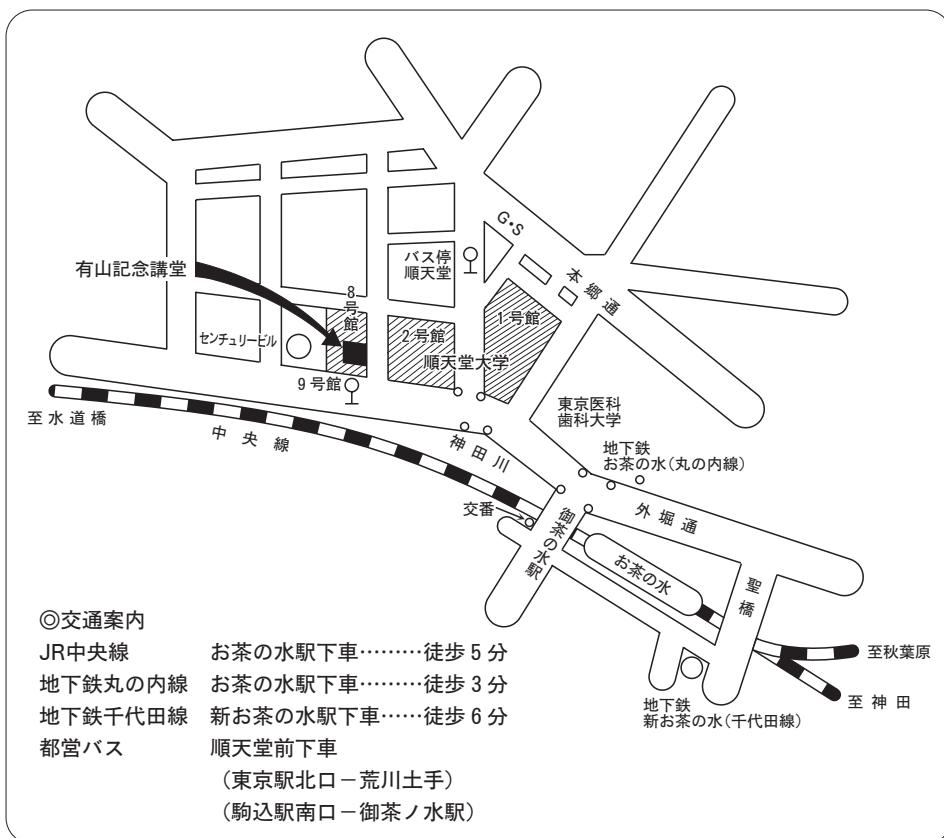
第 536 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プロ グ ラ ム

日 時 平成18年2月25日(土)午後2時00分

場 所 順 天 堂 大 学 有 山 記 念 講 堂



演題の申し込みについて

- 講話会の当日、文書で提出してください。
- 抄録(160字内外)をおつけください。
- 原則として指定発言者をご記入ください。
- 演者、指定発言者は、当日抄録(200字以内)を提出してください。(日本小児科学会誌掲載の為)

世話人

プログラム係 深澤 隆治
日本医科大学多摩永山病院小児科 042(371)2111
FAX 042(372)7377

会場係 大塚 宜一
順天堂大学小児科 03(3813)3111
事務局 03(5388)7007
事務局電子メール shounihifuka@joy.ocn.ne.jp

第 536 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題 6分, 指定発言 5分, 追加討論 2分以内, 厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:30

座長 麻生誠二郎（日本赤十字医療センター小児科）

1) 転倒後に四肢、体幹の急性不全麻痺をきたした 2歳男児例

○石井 卓, 水村 玲子, 春山和嘉子, 西口 康介,
荷見 博樹, 玉木 久光, 大森 多恵, 伊藤 昌弘,
三澤 正弘, 大塚 正弘, 関 一郎（東京都立墨東病院小児科）

生来健康な 2歳男児。転倒後に突然、四肢、体幹の不全麻痺が出現した。MRI では延髄中央に異常信号域を認め、抗活性酸素薬の投与を 2週間行った。その後、症状、画像所見とともに改善を認めた。延髄に異常信号をきたした原因について、症状出現時のエピソード、検査所見および文献をもとに考察する。

2) ノロウイルスおよびロタウイルス感染時に無熱性痙攣の群発を繰り返した 1歳男児例

○鶴岡 美幸（東京都立豊島病院研修医）
栗屋 敬介, 南風原明子, 宮田 有里,
斎藤 洋平, 小口 学, 高田 昌亮（ 同 小児科）
酒井 理恵（順天堂大学公衆衛生学）
鈴木 恭子（順天堂大学浦安病院小児科）

軽症下痢に伴う痙攣は、再発は稀で予後良好とされているが、1歳3カ月時のノロウイルス感染、1歳5カ月時のロタウイルス感染時に無熱性痙攣の群発（4回、7回）を反復した男児例を経験した。これまでの脳波検査では明らかな発作波はない。本症例は、胃腸炎ウイルス感染の種類によらず機会性痙攣を起こしやすい症例が存在することを示している。

指定発言 新島 新一（順天堂練馬病院小児科）

3) 銀杏の大量摂取後にけいれんを呈した女児例

○高木 健, 秋山 政晴, 衛藤 義勝（東京慈恵会医科大学小児科）
和田 啓爾（北海道医療大学薬学部衛生化学講座）

症例は 3歳女児。頻回の嘔吐と顔色不良を主訴に当院救急外来を受診し、到着後すぐに全身性硬直性けいれんを起こした。けいれんは無熱性で、約 1 分後に自然に消失し、意識はすぐ回復した。母親への問診から患児は大量の銀杏を摂取したことが明らかとなった。銀杏中毒を疑い、ビタミン B₆ の投与を行った。後日の検査で血中 4-O-methylpyridoxine 濃度が高値であったことから銀杏中毒と診断した。小児特に幼児においては銀杏の摂取に注意を払う必要がある。

第 2 グループ 14:30—15:05

座長 島 義雄（葛飾赤十字産院小児科）

4) 出生時頭囲の測定値によるばらつきに関する検討

○池田 一成（慶應義塾大学周産期母子医療センター新生児部門）
高橋 孝雄（慶應義塾大学小児科学教室）

正確な頭囲測定は、乳児健診や早期産児のフォローアップに欠かせない。しかし、体重と異なり、頭囲の測定値は測定者によるばらつきが大きい。某産院において、連続する約 350 例の正期産児を対象に、助産師／看護師の測定した頭囲と小児科医師が測定した頭囲との差を検討した。小児科医師による測定値が、助産師／看護師による測定値より大きい傾向を示した。助産師／看護師に頭囲測定の重要性を強調し、測定方法を工夫・指導することにより、両者の差は減少した。

5) Multiple acyl-CoA dehydrogenase 欠損症 (MAD) の 1 例

○石井志布子, 船木 聰, 村上 仁彦,

中林 啓記, 山崎 弘貴, 高橋 昌里 (駿河台日本大学病院小児科)

長谷川有紀 (島根医科大学小児科)

4カ月の男児。出生後、母乳と玄米ジュースで栄養されていた。半日程度の飢餓後、意識障害と痙攣が出現した。低血糖と高 NH₃ 血症が認められたため、当科に転院した。糖質を中心とした輸液にて状態の改善をみた。中鎖～極長鎖アシルカルニチンの上昇を認めたことから、MAD と化学診断した。特異な栄養法が患児に及ぼした影響につき報告する。

6) 縦隔腫瘍が疑われた横隔膜ヘルニアの 1 男児例

○藤村 純也, 千葉 幸英, 坂口 佐知, 柳原 オト,

塩沢 裕介, 斎藤 正博, 清水 俊明, 山城雄一郎 (順天堂大学小児科・思春期科)

大下 正晃, 山高 篤行, 宮野 武 (同 小児外科・小児泌尿生殖器外科)

生後 2 カ月の男児。生直後から多呼吸を呈し、VSD, PDA, PH と診断され、心不全の治療を受けている。日齢 22 の胸部レントゲンで異常陰影を認め、右後縦隔腫瘍を疑われて当院紹介となった。画像による精査の結果、横隔膜ヘルニアと診断した。縦隔腫瘍の鑑別として、非腫瘍性疾患の重要性を再認識したので報告する。

7) 仙尾部奇形腫に対する外科治療とその予後

○金山 和裕, 矢内 俊裕, 山高 篤行, 宮野 武 (順天堂大学小児外科・小児泌尿生殖器外科)

当科で経験した仙尾部奇形腫 12 例について検討した。未熟型の 2 例に局所再発がみられたが、1 例は AFP 正常で発見されたことから、AFP は必ずしも再発の指標とはいえない、定期的な画像診断が必要と思われた。晚期合併症では膀胱直腸機能障害が問題となるが、我々は、超音波凝固装置や LigaSure による腫瘍剥離操作を行うことで、骨盤神経叢や仙骨神経への熱損傷を抑えており、結果、全例で膀胱直腸機能が保たれている。

休 憇 15:05—15:15

感染症だより 15:15—15:25

座長 山本 光興 (山本小児科)

岡部 信彦 (国立感染症研究所感染症情報センター)

教 育 講 演 15:25—15:55

座長 廣津 卓夫 (ひろつ小児科)

子宮内発育不全児は生活習慣病予備軍？（成人病予防の見地から）

山城雄一郎 (順天堂大学医学部小児科・思春期科)

生活習慣病の発症は、主に肥満に起因する事は今や一般国民の間にも常識になりつつある。

肥満の増加は世界的な傾向で、我が国でも同様である事に加え、糖尿病発症リスクが白人に比し高いという遺伝的素因等を考慮すると、国民の健康は勿論、医療経済的な面からも深刻な問題となりつつある。他方、若い女性の間で過剰なダイエットと共に伴うやせ、即ち不適切な栄養状態が我が国の特異的問題として浮上している。これら女性は妊娠・出産の際、当人もそして出生する児にも短期的かつ長期的影响を及ぼすリスクが高い。事実、最近の新生児出生時体重は低下傾向にあり、子宮内発育不全（低出生体重児）も増加している。胎児期の低栄養がその児の将来の生活習慣病発症に影響する可能性が高い（いわゆる nutritional gene modulation）という。

近年の研究成果は、重要な課題と考える。

第3グループ 15:55—16:25

座長 奥山 伸彦（青梅市立総合病院小児科）

8) クローン病の病勢とMRI画像診断

○源河 綾子, 北爪 勉, 小野 正恵, 鈴木 淳子（東京通信病院小児科）
武村 濃, 鈴木 丈夫（同 放射線科）

クローン病の病態は再燃と寛解を繰り返し、治療経過の評価には現在下部消化管内視鏡や造影CTなどが使われているが、侵襲が強くそれ自体が病勢の増悪を招く可能性があり、狭窄病変に対しては不適応となる。今回、非侵襲的なMRIによる病変部位の描出と同部位の腸管蠕動運動の変化に着目した治療評価の可能性を示した14歳女児の1例を紹介する。

9) 薬剤性尿細管間質性腎炎の1例

○山内 裕子, 羽田 紘子, 平野 大志, 赤司 賢一,
黒川 直清, 布上 孝志, 坂口 直哉, 白井 信男（東京慈恵会医科大学青戸病院小児科）
衛藤 義勝（東京慈恵会病院小児科）

症例は5歳男児。入院1週間前より発熱、下痢を認め、抗菌薬内服していたが改善なく当院入院となった。入院後胃腸炎に対し補液、抗生素投与を行ったが、発熱は続き、BUN, Cr, 尿β₂MGの上昇を認めた。基礎疾患はなく、臨床経過とあわせて薬剤性間質性腎炎と診断した。本症例では保存的治療で軽快し、予後は良好と考えられた。若干の文献的考察を加えここに報告する。

10) ショック状態で救急受診した高度貧血の1乳児例

○森田 清子, 山之上 純, 絹巻 晓子, 小高 学,
柳原 知子, 和氣 彰子, 柳原 裕史, 松岡 典子,
小鍛治雅之, 寺川 敏郎, 遠藤 泰弘, 横路征太郎（東京都立府中病院小児科）
井田 孔明（東京大学小児科）

症例は哺乳不良、顔色不良を主訴に救急受診した2ヵ月女児。血圧測定不能、収縮期心雜音あり、陥没呼吸著明、Hb 1.3 g/dlであった。急性出血所見なし。気管内挿管し骨髓針からMAP輸血、DOA投与を行い心機能、呼吸状態とも回復。著明な貧血により心不全、呼吸不全に陥ったと考えた。精査にて先天性赤芽球瘍と診断、ステロイドパルス療法を行い改善した。

指定発言 柳川 幸重（帝京大学小児科）

第4グループ 16:25—17:00

座長 江口 博之（東京都立大塚病院小児科）

11) 1ヵ月時に著しいチアノーゼ、呼吸障害で発症したVSDを伴うRS肺炎の1例

○白井 潤二, 深澤 隆治, 飛田 正俊（日本医科大学多摩永山病院小児科）

先天性心疾患児のRSV感染は重篤化することが知られ、昨年より先天性心疾患児にもPalivizumabの使用が許可された。RSV感染により肺血管抵抗が増強し、著しい肺高血圧をきたすことが原因と考えられる。今回我々はRSV感染にともない著明な肺高血圧とチアノーゼを呈し、心エコー上逆シャントを観察したVSD児を経験したので供覧する。

12) 練馬区内の小学校における学校集団嘔吐発生について

○福永 英生, 渡辺 直樹, 青柳 陽, 藤森 誠,
鈴木 竜洋, 新井 勝大, 大友 義之, 新島 新一 (順天堂練馬病院総合小児科)
北島 和子, 丸山 弘, 池戸 一浩, 西田みちよ (練馬区保健所)
牧田 郁夫 (牧山小児科内科医院)
落合 隆子 (練馬区休日夜間診療所(落合クリニック))

極めて短時間に全校児童・職員の約半数 (417人) が嘔吐する学校集団嘔吐症を経験したので報告する。原因は保健所によるPCRの検索でノロウイルスと判明した。同ウイルスは秋季集団発生が知られているが、今回ほど大量な患者発生は稀である。一般診療時間外に患者集中が起こり、医療機関同士の連絡体制や保健所との連携のあり方についても重要であったので報告する。

13) 当科における喘息発作と呼吸器感染症の関連性についての検討

○岡田 千晶, 朝貝 省史, 岡田 隆文, 北西 史直, 松永 典子, 三春 晶嗣
津村 由紀, 櫻井 優子, 有馬ふじ代, 松原 啓太, 岩田 敏
(独立行政法人国立病院機構東京医療センター小児科)

2005年1月から12月に発熱・呼吸器症状を主訴に当科受診した患者のうち、上咽頭ぬぐい液を採取し、PCR法で感染性微生物の検出を行った486症例を対象として、喘息発作と呼吸器感染症、及びその起因微生物（ウイルス、マイコプラズマ、細菌）についての関連性を検討した。喘息発作の誘因としてライノウイルス、RSV、マイコプラズマが考えられた。

運営委員会だより

- 1月の講話会参加者147名、新入会8名（会員数1,767名）、ベビーシッタールーム利用者4名。
- 運営委員会では、地方会講話会を活発な意見交換の出来る場にしようと考えております。つきましては、発表される演題に関し、診断や治療で苦慮された点を一枚のスライドにまとめて合わせてご発表頂くよう、ご協力お願い申し上げます。また、指定発言をなるべく取り入れるよう、お願い申し上げます。
- 東京都地方会のスケジュールが順天堂大学医学部小児科のホームページ（下記）に加わりましたのでご参考下さい。その他、地方会の運営などに関し、ご意見、ご希望などございましたら、どうぞご連絡頂きまますよう、宜しくお願い申し上げます。<http://www.timelyhit.ne.jp/ped-juntendo>
第537回 平成18年3月18日（第3土曜日）
- 3月教育講演は下記の通り予定しております。
3月 我が国の若者に増加するHIV感染
(演者：佐藤 武幸 千葉大学感染症管理治療部)
どうぞ、皆様奮ってご参加下さい。
- 地方会の事務・管理・運営について
東京都地方会の事務業務は、昭和20年代初め頃より、日本医事出版社（当初は和光堂株式会社）に委託する形で現在まで運営されております。日本小児医事出版社のご厚意により現在の年会費4,500円、会場費200円という破格の値段で今日まで、地方会の運営を継続することが出来ました。しかし、他の学会や社会情勢その他を鑑みて、現状をこのまま続けることは、非常に大きな問題と考えます。
ただし、事務管理を行う方の入件費を安く見積ったとしても、年会費は1,500円程度の増額が必要と考えられます。
また、平成16年度は、東京地方会の収入が、6,835,686円であったのに対し、支出が7,343,413円と507,727円の赤字でした。については、2月の幹事会において事務管理費の改定（年会費6,000円、会場費500円）を提案したいと考えております。併せて、講話会発表の際には、発表者はもちろん共同演者の方々についても本会の学会員であること（年会費を納めていること）を条件としたいと考えております。
東京都地方会運営委員会としては、将来を見越した、より良い運営方法を考えるべく、会員皆様方の御意見をお待ちしております。事務局の運営方法、年会費・会場費の増額などに関しても、2月の幹事会で検討し、3月の総会である程度の結論を出して行きたいと考えております。どうぞ幅広い御意見をお寄せ下さい。
(メールアドレス：yamasiro@med.juntendo.ac.jp)

WAKODO

アズレン含嗽液

薬価基準収載

アズレワン[®]うがい液 1%

(アズレンスルホン酸ナトリウム製剤)



※効能・効果・用法・用量・使用上の注意等につきましては、添付文書をご覧ください。

資料請求先

発売元 和光堂株式会社

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-14-3

製造販売元 株式会社 イセイ

〒990-2495 山形県山形市若葉町13番45号

05.09

Computer Presentation をご希望の演者の先生方へ

Computer Projection による発表を受け付けます。ただし Windows のみで下記要領でお願いいたします。Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは Floppy Disk にて、第 1, 2 グループ発表者は午後 1 時 30 分までに、第 3 グループ以降の発表者は午後 3 時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願いいたします。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設いたしました。利用ご希望の方は、利用当日の 1 週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・及び預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきますことをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3 日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193

演者の先生方へのお願い

一次抄録は 160 字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の 200 字以内を厳守くださるようお願いいたします。(原稿は活字もしくはワープロ文字で)